



どこに  
ある  
でしょう?



## プロフィール

作品の名前	いろいろ かちょうもんさら 色絵 花鳥文皿	裏側についているマーク
作られた年代	めいじ ねんだい 明治20年代(今から130年くらい前)	藤村
作られた場所	日本	
売っていた場所	アメリカ	

これは東京にあった、藤村與兵衛さんの陶磁器の絵付け工場で作られたお皿です。  
藤村さんは、陶磁器の産地として有名な加賀・九谷(今の石川県)で生まれた人です。

ここで

Question!  
クエスチョン

Q.1 お皿に大きくかいてある花の名前は?

- ①バラ ②ひまわり ③ぼたん

Q.2 お皿にかいてある家は、どんな家?

- ①石でできた家 ②かやぶぎ屋根の家

Q.3 お皿のフチのもようは何色?

- ①赤と金 ②青と銀 ③茶色

「かやぶぎ屋根の家」は、  
かやという植物や  
すずきなどを屋根に  
つけている家のことです。

このお皿にかくされたなぞは?  
うらをみてみよう▶



## A.1 ③ぼたん

日本には、1,000年以上前からあるといわれています。  
か 家もんや、着物のデザインに使われるなど、  
むかし 昔からなじみのある花です。

## A.2 ②かやぶき屋根の家

むかし 昔の日本の家によくみられた造りです。  
100年くらい前までは、山に近い農村に  
たくさんありました。

## A.3 ①赤と金

じいろ 赤の地色に金の模様が入っています。  
「明るい?」「暗い?」どんな感じがしますか?  
ぶぶん 絵の部分もたくさん色が使っておりますね。

かいてあるものは日本風だね。

カラフルで少し派手な感じかな?



これは、明治20年代の輸出用の陶磁器によくある絵がらです。左のお皿は、ちがう絵付け工場で作られたものですが、似たふんいきをしていますね。これらは「九谷風」とよばれて、外国の人に人気があったといわれています。



外国の人が好きな絵だったんだね!

## 「ちょっと耳よりエピソード①」

このお皿はどうやってできたの?

明治時代には、東京と横浜に多いときで500以上の陶磁器に関わる会社がありました。

そこでは、瀬戸(愛知県)や多治見(岐阜県)などの陶磁器の産地で作られた陶磁器に絵をつけて、外国に輸出していました。

※日本のものを外国に売ることを「輸出」といいます。



形をつくるのと、絵をつけるところがはなれていたよ。



「ちょっと耳よりエピソード」は全部で24話あります。すべて集めてならべかえると、ひとつのお話になります。続きはwebでも読むことができます。